

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

東京都豊島区

2022年9月

SDGs未来都市計画名

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画
消滅可能性都市からの脱却 ～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

自治体SDGsモデル事業

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画
消滅可能性都市からの脱却～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

(2) 2030年のあるべき姿

本区が目指す持続発展可能な具体的都市像「国際アート・カルチャー都市構想」を実現する。
本構想は、誰もが多様な文化を享受し、文化の持つ「想像力」と「想像力」で世界中の人を魅了し、人と産業を惹き付ける好循環が生まれるまちを将来像として描いている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済			社会			環境	
							

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	フェスティバル/トーキーへの来場者数【8.9】	2019年度 39,147 人	2020年度 32,135 人	2030年 85,000 人	-15%
2	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間【9.1】	2019年 116 分/人・日	現状では左記が最新データ	2030年 130 分/人・日	-
3	池袋駅周辺の歩行者数【11.7】	2017年 112,400 人/12h	現状では左記が最新データ	2030年 130,400 人/12h	-
4	今後着手が見込まれる民間再開発事業投資額【8.3】	2019年度 0 円	2020年 1,113 億円	2030年 5,000 億円	22%
5	自立して活動を展開するエリアマネジメント団体数【11.7】	2020年 1 団体	2020年 1 団体	2030年 6 団体	0%
6	地域に愛着を感じている区民の割合【11.7】	2019年 79.4 %	2021年 84.5 %	2030年 85 %	91%
7	WEB等を通して発信する、多言語での生活基本情報（転入手続きやゴミの出し方等）について【16.6】	2019年度 10 テーマ	2021年度 10 テーマ	2030年 30 テーマ	0%
8	区内の交通事故発生件数【3.6】	2019年度 549 件	2021年 597 件	2030年 500 件以下	-98%
9	区民ひろばの安全・安心学習プログラム数と延べ参加人数【11.7】	2019年度 2,306 回	2021年度 2,409 回	2030年 2,500 回	53%
		2019年度 44,620 人	2021年度 25,427 人	2030年 50,000 人	-356%
10	セーフコミュニティの活動の認知度（考え方や活動を知っている/言葉は聞いたことがある）【17.7】	2019年度 32.5 %	2021年度 35.3 %	2030年 50 %	16%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度 （%）
11	〇〇（様々なこと）ができる公園整備数【11.7】	2020年3月 2 箇所	2021年3月 16 箇所	2030年 22 箇所	70%
12	区内の温室効果ガス排出量の削減（千t-CO2）【11.7、13.2】	2015年度 1,647 千 t	2019年度 1,510 千 t	2030年 1,102 千 t	25%

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

本区が目指す「国際アート・カルチャー都市構想」は「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を掲げ、文化を基軸に都市を再生させ、関わる全ての人のまちへの誇りと愛着を醸成し、人が主役となって次代へ継承していくことを目指している。

しかし、新型コロナウイルスの本計画策定時から我々の生活様式は大きく変化している。コロナの影響を受けNo1、9においては思うような数値が出てこなかったため、2030年のあるべき姿の実現に向けてwithコロナの観点を入れて、指標の変更や数値目標の設定について検討していく必要がある。

本区は2022年に豊島区制施行90周年を迎え、区民や地域団体の方々を中心とした区民実行委員会が設立され、様々な取組みを実施している。また、企業が中心となる企業実行委員会も設立され、区内外企業の約280社が参加しており、100周年に向けては、区民、地域団体、企業のオールしよの輪を広げ、人を中心としたウォーカーブルなまちづくりを進める。

※No1、4、5には、2020年度数値が最新。No1は2021年より東京芸術祭と統合され今後数値が取れず。No12においては2019年が最新。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	多様な文化事業の実施（文化を軸とした発信力の強化、来街者の増大に向けて）	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116 分/人・日	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ		2022年 120 分/人・日	-
2	安全で快適な歩行者空間の拡大（賑わいと人の流れの、まちへの拡大に向けて）	池袋駅周辺の歩行者数	2017年 112,400 人/12h	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ		2022年 115,100 分/人・日	-
3	公民連携による子育て支援等の推進（子どもと女性にやさしいまちづくりに向けて）	待機児童数ゼロ	2019年4月 16 人	2020年4月 0 人	2021年4月 0 人		2022年 0 人	100%
4	公園等の効果的な整備・活用・ネットワークの構築（地域のニーズに応じた公園整備、防災対策に向けて）	区内公園の占用料および使用料	2019年度 55,855 千円/年	2020年度 65,540 千円/年	2021年度 74,907 千円/年		2022年度 60,000 千円/年	459%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「国際アート・カルチャー都市構想」は、本区が2014年に指摘を受けた「消滅可能性都市」からの脱却を図るために描かれた。本構想に掲げた「誰もが主役になれるまち」は、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」と軌を一にするものである。

都市構想実現に向け発信や参画等の活動を担う「豊島区国際アート・カルチャー特命大使」は、活動費を自ら負担しながら、自律的な組織運営を目指してきた。「SDGs未来都市」の選定を受け、特命大使は新たな制度「豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使」へと生まれ変わり、本区の持続発展可能なまちづくりのさらなる推進に貢献している。

また、今年度の豊島区制施行90周年を機に発足した企業実行委員会に約280社の企業が参加。企業実行委員会が主体的にSDGs推進セミナーを開催し、企業同士の横のつながりを広げるなどしている。今後、豊島区はSDGsを切り口にこのような企業と連携を深め、登録・認証制度について豊島区ならではの制度構築していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

本区は一貫して文化を基軸にしたまちづくりを進めてきた。文化はまちに賑わいをもたらす、人の心を豊かにし、平和な社会を創出する。

3年計画である自治体SDGsの推進に資する取組に新型コロナウィルス感染症が与えた影響は大きい。現計画はコロナ禍前に立てたものであり、今後はwithコロナの観点を踏まえながら指標の変更等を検討していく必要がある。

人が中心のウォーカーフレンドなまちづくりを目指している豊島区においては、来街者の滞在時間等の指標が重要となってくる。しかし、「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」、「池袋駅周辺の歩行者数」については、毎年調査をしている指標ではないため、他の指標を検討する必要がある。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・公園と文化等を基軸にしたSDGsの取組はユニークで実績も上がっていると考える。SDGsの取組の新しい切り口として高く評価できる。
- ・交通事故発生件数が減っていないため、要因を精査する必要があると考える。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業名

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

(2) モデル事業の概要

「国際アート・カルチャー都市構想」は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた2020年を中間目標とし、「文化戦略」「空間戦略」「国際戦略」の3つの戦略で実現への道すじを描いた。

23のまちづくりプロジェクトの推進などの集中投資によって、劇場都市の舞台は完成をむかえ、まちは大きな変貌を遂げた。今後、SDGsの理念も取り込みながら「ひと」が主役の持続発展可能な都市の実現を目指す。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	
①-1 国際的な舞台芸術祭「フェスティバル・トーキョー」の実施 ①-2 池袋駅周辺4公園の活用(文化イベントの実施等) ①-3 東アジア文化都市の交流都市(中国・西安市、韓国・仁川広域市)との文化交流事業 ①-4 公民連携により、まちづくり組織の活動を展開	賑わい・回遊性の拡大や、歩きたくなるまちづくりといった、公民連携による魅力ある都市空間づくり	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116分/人・日	現状では左記が最新データ		現状では左記が最新データ		2022年 120分/人・日	-
		4公園における自立しているエリアマネジメント団体数	2020年 1団体	2020年 1団体	2021年 1団体	2022年 3団体	0%		
②-1 総合高齢社会対策の推進 ②-2 多文化共生の推進 ②-3 子どもの参加(区内保育施設IKEBUS活用事業) ②-4 池袋駅周辺4公園による安心の創出 ②-5 インクルーシブ公園の整備と園外保育の充実	高齢者の外出促進や、子どもの遊び場など、誰もが安心して楽しめる身近な居場所づくり	0~5歳の人口	2020年1月 11,673件	2021年1月 11,440件	2022年1月 11,033件		2022年 12,680件	-63%	
		インクルーシブ公園の整備件数	2020年3月 0件	2021年3月 3件	2021年3月 8件		2022年 5件	160%	
③-1 グリーンインフラの拡充 ③-2 低炭素地域社会づくり ③-3 協働による環境都市づくり	既存公園の有効活用や、新技術活用、協働による工夫に取り組んでいる	区内の温室効果ガス排出量の削減(千t-CO2)	2015年度 1,647千t	2018年度 1,580千t	2019年度 1,510千t		2022年度 1,431千t	63%	

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

17のゴールと169のターゲットを設定するSDGsの領域は幅広く、区政においては業務全般がSDGsにつながるものと考えている。今年度改定した豊島区基本計画において全ての業務を17のゴールに紐づけた。今後はSDGs専任部署「国際文化プロジェクト推進室(SDGs未来都市推進課所管)」が「経済」「社会」「環境」の三側面を踏まえながら、全庁横断的な情報共有や連携調整を図り、これまでの都市再生による効果や課題等も活かして、文化・教育・福祉・環境など多分野での事業へ展開を進めている。

令和4年度より、毎週実施をしているファーマーズマーケットにて、全部局が週替わりでSDGsブースを展開。行政の各部署よりSDGsの取組みを紹介し、地域の方々へ多分野の情報を発信している。また、各部署がSDGsブースを展開することで、職員が自分事としてとらえ今後のSDGs推進を行政全体で展開できるよう努めている。

環境面では令和3年2月にゼロカーボンシティを宣言しているが、区の環境施策をさらに加速させていくため、「2050としまゼロカーボン戦略」を策定。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

公民連携による都市空間活用プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

本区が目指す「ひと」が主役の「SDGs未来都市」は、巨大ターミナルである池袋駅を中心とした水平開発の広がり「ひと」を「まち」へと呼び込むウォークアブルなまちづくりを目指している。池袋駅周辺の特色ある4つの公園とそれらをつなぐ真赤な電気バス「IKEBUS」をモデル事業に据え、「SDGs未来都市」の推進を先導し、池袋の価値を向上させることで、豊島区全体の価値が向上していく。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済↔環境	経済↔社会	社会↔環境
【経済→環境】 まちの賑わいが生む収益により、公園等の環境整備 【環境→経済】 公園整備や「IKEBUS」運行により、来街者や定住者が増加	【経済→社会】 まちの賑わいにより、新たな文化が誕生 【社会→経済】 文化の魅力発信により、来街者が増加	【社会→環境】 グリーンローモビリティにより、交通環境を整備 【環境→社会】 緑あふれる環境整備により、定住意欲の向上

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 公園利用者数（対象3公園）	2020年2月平日 6千人/日	2020年度平日 5.6千人/日	2020年度平日 5.5千人/日		2022年度平日 6.6千人/日	-83%
		2020年2月休日 12千人/日	2020年度休日 11.8千人/日	2020年度休日 11.8千人/日		2022年度休日 13.2千人/日	-16%
	区内公園の占用料および使用料	2019年度 55,855千円	2019年度 65,540千円	2019年度 74,907千円		2022年度 60,000千円	459%
2	【環境→経済】 池袋駅周辺の歩行者数	2019年 112,400人/12h	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ		2022年 115,100人/12h	-
		池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116分/人・日	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ		2022年 120分/人・日
3	【経済→社会】 「多様な文化芸術活動が展開され、良質な文化芸術に接する機会が多い」と考える区民の割合	2019年度 40.6%	2020年度 42.5%	2021年度 42.2%		2022年 45.0%	36%
4	【社会→経済】 区の新設法人数（四半期平均）	2019年度 375社	2020年度 352社	2021年度 341社		2022年 400社	-136%
5	【社会→環境】 IKEBUS利用者数	2020年1月 13,000人	2020年（一四半期） 7,050人	2021年（一四半期） 8,741人		2022年（一四半期） 22,500人	-44%
6	【環境→社会】 住み続けたいと考える区民の割合	2019年度 82.2%	2020年度 80.9%	2021年度 83.1%		2022年 85.0%	32%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

「豊島区国際アート・カルチャー特命大使／SDGs特命大使」をはじめ、区民・区内団体・区内企業がこのまちに魅力を感じるファンベースの展開を図っている。区内外の企業や団体等への徹底したプロモーションを図り、あらゆる投資機会や参画機会を受け止め、関係機関との連携や調整等の役割を果たしている。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

コロナの影響により集客イベントの多くが中止になる中、公園を活用したコンテンツの投資や関心は高まっている。徹底した感染症対策のもと「グローバルリング」では野外クラシックコンサート、イケ・サンパークでは毎週ファーマーズマーケットや子どもを対象としたイベント開催。4つの公園を軸に様々なイベント等を実施することで、回遊性を高め、更なるまちの魅力向上につなげていく。一方、地域住民等と直接の意見交換は実施が出来ず、地域活動組織の拡充には至っていない。今後の社会情勢を見据えながら住民参画事業の再開を検討していく。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・0～5歳人口の目標値を定めた経緯を確認し、その妥当性を再検討すべきと考える。